

戦後70年

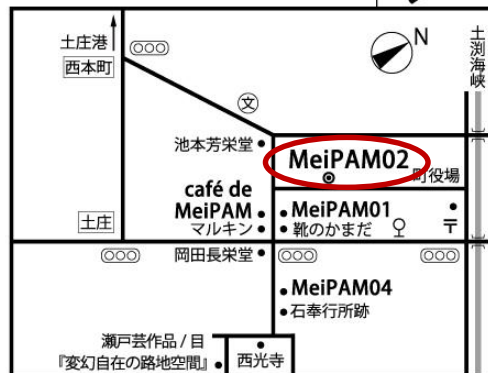
【戦時中の海軍赤飯の缶詰】記者発表会のお知らせ

●日時:2015年7月30日(木) 13:00~14:00

●会場:MeiPAM 02 香川県小豆郡土庄町甲550

瀬戸内・小豆島でアートを中心とした地域事業を展開しているMeiPAM(メイパム)では、運営しているアートギャラリーのひとつMeiPAM02で見つかった戦時中の「赤飯の缶詰」を8月より公開・展示します。これに先立ち7月30日(木)に記者発表会を行いますので、どうぞ参加くださいますようお願いいたします。

※詳しくは裏面をご覧ください。



MeiPAMは、高松・岡山への主要航路の発着港:土庄港から徒歩15分の所にあります。



MeiPAM02
宮脇慎太郎写真展
「語り継ぐ島物語 Guardians」で、
8月1日より一般展示公開します。

当企画展は、小豆島・豊島で生まれ育った語り部の肖像を鮮やかに写し出した写真展です。MeiPAM02で見つかった歴史的に貴重な「赤飯の缶詰」は、この会場内で8/1(土)~8/31(月)まで一般展示公開します。

【迷路のまち】とは？

東西の産業・文化の要所であった小豆島では、南北朝時代に海賊や敵の侵入を恐らすために、細い路地を不規則に張り巡らせた町づくりがされました。その路地が今も現存しており、島民がなにくわめ顔をして住んでいます。風情ある石垣や懐かしい昭和な雰囲気の中、迷いながらめぐるのが実は楽しいまちなのです。



▲西光寺の参道で栄えた呉服屋の蔵をリノベーションしたアートギャラリー、MeiPAM01

戦後70年、小豆島で見つかった戦時中の「赤飯の缶詰」を公開。 当日、その場で1缶を開缶します。



●見つかったのは、古い醤油屋の倉庫。

MeiPAMでは、2010年より明治時代から残る呉服屋の蔵などを活かして土庄本町「迷路のまち」で4館のアートギャラリーを展開していますが、この缶詰が見つかったのはそのひとつ、古い醤油屋の倉庫。近くには、旧東洋紡績瀨崎工場跡は、特攻訓練所の兵舎として使われていた場所があり、戦地へ赴く人たちのための保存食だったのではないかと推測されます。MeiPAMでは、これらを貴重な歴史の遺物として誠意を持って取り扱い、公開します。

●昭和19年。横須賀海軍からの配給。

木箱の中に収められていた缶詰は錆びて腐食しているものもありましたが、全体的には保存状態がよくその数、17缶。ラベルには以下の表示がされています。

品名：赤飯
 内容量：415瓦(g)
 納入年月：昭和19年
 製造者：広島県広島市合同罐詰株式会社 尾道工場
 納入者：日本罐詰統制株式会社
 横須賀海軍軍需部納

●缶詰博士・黒川勇人氏が当日1缶、開缶します。

「缶詰の魅力を一人数多くの人に伝えたい」と、世界46カ国を取材。食した缶詰は数千缶に及ぶという、公益社団法人日本缶詰協会公認の「缶詰博士」黒川勇人氏が記者発表会に参加。1缶を開缶して中身の状態を確認・評価していただきます。



赤飯缶詰(現物)及び、画像・動画(DVD)・文字資料をご用意しています。